

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献できる名実ともに日本一の美術・デザイン系専門高等学校をめざす
- 1 造形活動を通じて学力と表現力を育み、高度な知識・技能を身に付け、造形文化の発展と創造に寄与する態度を育成する。
 - 2 将来、美術・工芸・デザインの第一線で活躍し、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。
 - 3 美術・工芸・デザイン教育のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「文化都市大阪」の発展に寄与する。

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「プロデュース力」、「発信力」の育成

- (1) 造形活動を通して、造形表現に必要な「確かな学力」、「プロデュース力」、「発信力」の育成に取り組む。
- ア 1年次より、ポートフォリオ等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「家庭学習強化週間」等を通じて自学自習の習慣を身に付けさせる。学力テストを活用し、基礎学力の確実な定着をめざす。
- イ 造形教育における圧倒的な知識・実力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の拡充を図る。
- ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させ、「プロデュース力」、「コミュニケーション力」、「発信力」の育成を図る。また、読書活動等の促進により、言語活動を充実させる。
- エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員の指導力向上のため校内研修を充実する。
- 授業アンケートにおいて「授業内容に興味・関心をもつことができたか」について肯定的回答(平成30年度84%)を、2021年度には90%に近づける。
- 「発信力」の育成について、卒業時にはすべての領域の生徒がICT機器を活用するなどして、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。タブレット端末の導入により、すべての授業でICT機器活用を促進していく。

2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人を育成する進路指導

- (1) 将来、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。
- ア 高大連携、作家、企業、芸術団体との連携等の一層の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。
- イ 1年次から進路ガイダンスを系統的に実施し、将来を見据えた具体的な進路目標の実現に至る道筋を明確にし、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。進路指導の指標として、自から選択した進路希望の達成・満足度等を「進路情報等に関するアンケート調査」にて検証し、進路指導の充実を図る。各年次に行うアンケート調査の「進路指導等に関する内容」において、満足度が90%以上を維持していく。
- また、進路への不安や学校生活での相談等に対する相談体制を充実していく。
- ウ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。
- 造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、部活動加入率100%以上を維持していく。また、「高校展」等の展覧会への出品・入選を維持していく。2021年度においても現在の水準(美術の府内代表)を維持する。
- 部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。

3 美術・工芸・デザイン教育のセンター校としての役割

- (1) 府立学校唯一の美術系専門学科校として、センター的役割を果たしていく
- ア 美術系専門学科校として、施設設備・教員力・美術系大学等との連携を生かした活動を促進する。校内・外における生徒作品等の展示や、各種コンクールへの出品を通じて、その成果を発信する。
- イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、活動の拡充を図る。
- ウ 府立高校で唯一の美術系専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。
- 校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。また、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を図る。2021年度においても海外、国内の作品に触れる機会を、海外研修も含め5回以上実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「生徒回答」では、ほとんどの「設問内容」で、肯定的回答(「よくあてはまる」「ややあてはまる」)が昨年同様、高い評価であった。</p> <p>前年比で大きく向上(5%以上)したのは、「1 学校へ行くのが楽しい。(80%)」「16 担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる。(65%)」「17 学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。(88%)」であった。</p> <p>「16」の教育相談については、向上したものの、65%であり、まだまだ十分ではない。スクールカウンセラーによる相談の拡充など、より一層の教育相談体制の充実を図っていく。</p> <p>「17」の災害対応については、昨年度(平成30年度)の地震・台風を踏まえて、災害時の安否確認方法の確立や備蓄品整備、実践的な避難訓練の実施等により、理解が深まったものと思われる。</p> <p>大きく低下(5%以上)したのは、「20 国際感覚を養う国際交流の機会がある。(70%)」であった。今年度、外国からの訪問団が、当日のキャンセルもあり、昨年度に比べ少なかったためと思われる。</p> <p>「保護者回答」でも、ほとんどの「設問内容」で、肯定的回答(「よくあてはまる」「ややあてはまる」)が昨年同様、高い評価であった。</p>	<p>第1回(令和元年6月18日(火)開催) 平成31年度、令和元年度の学校の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用について、しっかりと取り組んでほしい。 ・防災関係では、多発する自然災害への対応、教室が暑くなるので生徒の作業環境に配慮した制作活動を実施していただきたい。 ・1年生のタブレット活用が興味深い。現在の入試では、ポートフォリオの見せ方や話す力を重要視されているので、この取組みは非常に大切なことだ。 ・玄関に設置しているデジタルサイネージは分かりやすく良い。 ・海外交流が多い港南造形高校が世界中から注目されるには、ホームページや学校パンフレットに英語表記が必要ではないかと思う。 <p>第2回(令和元年10月21日(月)開催) 学校の取組の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画広報・生徒会部の報告にあった内容で、後期の生徒会選挙において、多数の立候補者があったことは、とても良いことだと思う。また、選挙に当選できなかった生徒を「生徒会サポーター」として活動させる制度についても、とても参考になった。持ち帰って、自校でもこの制度を導入していきたい。 ・生徒会活動において、先程、校内美化の話があったと思うが、教員が主導で行うのでは

府立港南造形高等学校

前年比で大きく向上(5%以上)したものはなく、大きく低下(5%以上)したのは、「10 学校は、子どもに生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を養おうとしている。(81%)」「14 子どもは、高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。(83%)」であった。

ただし、どちらも80%を超えており、引き続き「人権教育の推進」、「制作活動への積極的参加」を図っていく。

なく、生徒会が呼びかけると効果が上がると思う。

・タブレット端末について、ポートフォリオとして活用されているが、授業以外の活用方法について教えてほしい。

第3回(新型コロナウイルスの影響により文書による確認 令和2年3月16日送付・確認)全委員に、「平成31年度 学校経営計画及び学校評価」(評価案)、「令和2年度 学校経営計画及び学校評価」(計画案)の了承を得た。

以下、学校経営計画及び学校評価に関する学校よりの報告

- (1)メロディチャイムの導入により生徒の授業遅刻が減少した。
- (2)今年度よりPCで生徒の出欠入力を開始した。校内wi-fi環境整備し、タブレットで授業を展開している。来年度はさらに拡充して整備をおこなう予定である。
- (3)海外交流は、台湾から高校生、インドから美術科教員の学校訪問があった。令和2年1月には、生徒26名、教員3名が姉妹校の「臺中第一高級中等学校」を訪問した。
- (4)新型コロナウイルス感染症の影響
入学者選抜業務では、志願書受付や学力検査時にすべての教職員がマスクを着用、消毒液の設置等、細心の注意を払いながら業務にあたった。その後の合格者発表、制服採寸も同様の対応をとった。多くの工夫や臨機応変な対応により、混乱することはなかった。新聞各紙にも本校の工夫が掲載された。
- (5)全校生徒へ英文で遅刻指導の呼びかけ、階段に消費エネルギーの表示等、遅刻指導の呼びかけを工夫して行った。生徒から反応があり、取組みは有効であった。
- (6)2019年5月27日に、毎日放送「ミント!」内の「たむらけんじの学校に行こっつ!」コーナーに本校の様子が放映された。
- (7)ホームページのアクセス数は、2018年度は39,159件、2019年度は3月10日時点で46,429件と、現時点で約7,000件多い。スムーズに情報伝達ができている。
- (8)進学予定者数(令和2年3月9日現在)
国公立大学10名:大阪教育大2名、京都市立芸大4名、沖縄県立芸大2名、尾道市立大1名・長岡造形大1名
私立造形系大学66名:女子美術大1名、大阪芸術大22名、京都精華大8名、大阪成蹊大8名、嵯峨美術大7名、神戸芸術工科大7名、京都造形芸術大5名、成安造形大5名、近畿大2名、他
国立短期大学校1名
私立一般大学4名
私立造形系短期大学17名、私立一般短期大学3名
造形系専門学校22名、一般専門学校22名
就職19名(令和2年3月9日現在)
- (9)デッサンコンクール
第2学年では休業日を活用し、デッサンコンクールを2回実施した。約80名が自分のデッサン力を競った。
- (10)夏の「高校展」、冬の「芸文祭」と大きな展覧会に、第1学年、第2学年の生徒の半数以上が挑み、大きな成果を得た。大阪府の代表生徒として全国総合文化祭に6名、近畿総合文化祭に4名が本校より選抜(選抜展へ)された。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 「発信力」の育成 創造的活動を通して、「確かな学力」と「プロデュース力」の育成</p>	<p>(1) 造形表現に必要な「確かな学力」、「プロデュース力」、「発信力」の育成 ア 学力診断テストの活用 イ 実技力の向上とICT機器の活用 ウ 言語活動の充実 エ 美術文化への理解</p>	<p>(1) ア 造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であり、家庭学習の強化も必要。難易度の異なる学力診断テスト（スタディサポート）を、年2回実施し、自己の学力の相対的な状況を理解させる。 イ 造形活動に必要な「圧倒的な実技力」を身に付けさせるため、実技講習の充実を図るとともに、調べ学習等を積極的に採り入れる。新たに導入したタブレット端末の活用を中心にICT機器活用の促進を図り、「学校へ行くのが楽しい。」の評価を向上させる。 ウ 読書活動等の促進により、言語活動を充実させる。生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を拡充する。 エ 日本工芸会等の協力を得て、日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた美術文化への理解を深める。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における学習取組度 85%を維持する(平成30年度は84.1%) イ・1年生は、授業のICT機器活用100%。2、3年生は、半数以上の授業での活用をめざす。学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい。」(H30は74%)を80%に近づける。 ウ・学校教育自己診断における発表機会の肯定的回答85%を維持する。(平成30年度は86%) エ・外部講師連携講座10回以上実施を継続する。 ・海外、国内の作品に触れる機会を増やす。(H30は12回)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における学習取組度 85%を達成した。() イ・1年生は、全員のタブレット導入により、授業のICT機器活用は100%。2、3年生も小型プロジェクターの活用、プレゼン発表の増加により、半数以上の授業でICT機器の活用を達成している。() 学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい。」は、80%に向上。() ウ・学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」は、88%に向上() さらに、「筑波大学高校生アートライター大賞」に、大阪府で唯一入選。 エ・外部講師連携講座は、夏季実技講習を含め10回以上を継続。 ・作品に触れる機会は、1年生全員の「大塚国際美術館」を始め、「日本工芸会展覧会」、「国立国際美術館との連携」、「美学美術史演習」、「台湾研修、故宮博物院」も含め、15回を超えた。()</p>
<p>2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人を育成する 進路指導</p>	<p>(1) 芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。 ア 高・大・専連携講座や講演を充実 イ 生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。</p>	<p>(1) ア 大学・専門学校の講師等による「美術造形の学びを将来の職業に生かす」ことをテーマにした講演を実施する。 イ 生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。進路指導の指標として進路実現に向けた進路指導体制の強化。担任以外の教育相談体制の充実を図る。 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。進路指導が個別の進路決定に役立ったかを調査し、その分析を進路指導の充実に活用する。部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。</p>	<p>(1) ア・講座参加生徒数のべ1,000名以上を継続する。(H30はのべ1,000名以上) イ・進路指導体制の強化のために、進路指導部員を増やす。(2名増) イ・進路指導体制の強化のために、進路指導部員を増やす。SCと連携した支援・相談体制の拡充と「カウンセリング室」の整備を行う。 ウ・進路指導満足度85%以上を継続する。(H30は92%) ・「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に達成する。</p>	<p>ア・学校連携講師等による講座参加生徒は、のべ1,000名以上を継続。() イ・進路部増員により、学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」は、93%に向上した。() SCと連携した支援・相談体制は、生徒支援の柱として機能している。さらに「カウンセリング室」の整備を続けていく。() ウ・進路決定の満足度を示す、学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」は、94%に向上した。() ・「定時退庁日」、「ノークラブディ」は達成し、さらに、生徒・教員とも、展覧会前以外は、ほぼ午後6時までに、退校している。()</p>

府立港南造形高等学校

<p>3 の役割 美術・工芸・デザイン教育のセンター校として</p>	<p>(1) 府立学校唯一の美術系専門学科校として、センター的役割を果たしていく ア 広報活動の充実 イ 学外展への積極的出品参加を促進 ウ 学校の専門施設設備の充実、海外交流の促進</p>	<p>(1) ア 美術専門学科設置校としての教育資源を活かした活動を HP で発信し、美術教育の振興を図るとともに、校内・外の展示を充実する。 イ 高校展や芸文祭等の高校生向け公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加することにより、さらなる意欲・実技力の向上を図る。 ウ 専門施設設備の維持管理、更新と充実により、生徒の造形活動の伸長につなげる。また、外国の学校との交流を通じて、国際理解を深めていく。</p>	<p>(1) ア・HP の更新を維持し、満足度を向上する。教育情報の発信、保護者評価を 85% に近づける。(H30 は 81%) イ・出品者数の維持 高校展 約 300 名 芸文祭 約 200 名 ウ・計画的に施設設備の維持更新を行う。 国際交流を 2 回以上実施する。</p>	<p>ア・HP の更新は、公式 twitter を含めると日々更新に近い。学校教育自己診断における保護者回答「学校は、教育情報について、情報提供の努力をしている。」は、80% であり、目標に達せず、昨年度より 1% 低下した。次年度、さらに周知が必要。()</p> <p>また、次年度より本校が「全国専門美術高校協議会本部事務局」となった。これは、日本一の美術の高校として認められた証。</p> <p>イ・「高校展」「芸文祭」とも出品者数は、例年同様に維持した。「高校展」334 名(優秀賞 19 名、奨励賞 60 名)、「芸文祭」239 名(入選 178 名)。受賞数は府内一。近畿・全国選抜出品数も府内一。 「芸文祭大賞」を 2 年連続受賞。 大学主催コンクールでは、大阪成蹊大学の「学校賞」「準大賞」を獲得。大阪芸大ダ・ヴィンチコンテストでは、「学部長賞」2 名を始め、全国で最多数入賞・入選であった。()</p> <p>さらに、感謝状(住之江区、住吉大社、すみのえまちづくり協議会) 知事賞(人権冊子)等、高い評価を受けた。</p> <p>ウ・計画的に施設設備の維持更新を行い、学校教育自己診断における保護者回答「学校の施設や設備については満足している。」は、88% に向上した。()</p> <p>国際交流は、台湾研修を復活させ、姉妹校の「臺中第一高級中等学校」との交流を始め、「臺中市葺格国際學校」来校、インド教員来校等を実施した。()</p> <p>さらに、造形教養の授業「美学美術史演習」では、ドイツの専門家と PC を使った遠隔授業も実施した。</p>
--	---	---	--	---